

令和 5 年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立東粉浜小学校

令和 6 年 3 月

1 学校運営の中期目標

社会に出て、夢をつかむことができる子どもを育てる

【 設定理由 】

アメリカの大学教授であるキャシー・デビッドソン氏によると、「2011 年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの 65%は大学卒業時に、今は存在していない職業に就くだろう。」と予測した。将来、グローバル社会になり、仕事の自動化、AI 化、ICT 化が加速する。

そんな社会で生き抜くには、自ら主体的に取り組み、指示待ちではなく、自ら解決する能力を持ち、クリエイティブな発想、創造、企画ができることが大切である。同時に、ロボットにはない、人間的感情、優しさ、思いやりに満ちた豊かな心も必要である。

そこで、夢を持ち、その夢の実現に向かって、見通しを持って努力を続けることができる子ども、自他ともに認めあい、支えあうことができる社会を担う子どもを育てることが、未来へとつながる教育と考える。

現状と課題

「安全・安心な教育の推進」では、常に児童に寄り添い、継続的、組織的に取り組み続けてきた。児童の言動から危機感を感じた時にはすぐに情報共有をし、組織的に対応を検討し、関係諸機関とも連携した結果、大きな問題になる前に落ち着きを取り戻すことができた。今後も、常にいつ再発するかもしれないという危機感を持ちながら見守り続けていく。さらに、ICT 機器を活用し、スクールライフノートの「心の天気」「相談機能」も日々チェックし活用をしていく。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」では、学力面では学力経年調査の標準化得点で、概ねどの学年もほぼ 100 を超えることができている。一定の学力の定着を図ることができている。体力面では、体を動かすことが好きな児童が多く休憩時間等に外で体を動かしている児童を多く見るなど、一定の成果はみられている。ただ、コロナ禍で様々な制限があったため、体力が向上しているとは言い難い。今後、学力面ではさらに読解力を伸ばし、自分の思いをしっかりと持ったうえで、コミュニケーション力をさらに磨き、周りの人に伝えあい、深めあえるように育てていくとともに、コロナ禍で制限がある中でも対策を施しながらより意欲的にすすんで体力向上に努めていくように働きかけていく。

「学びを支える教育環境の充実」では、より効果的に一人一台学習者用端末や ICT 機器を活用し、個別最適な学びに取り組み、協働学習で自分の考えをさらに深め、練り上げることができる授業を工夫していく。また、引き続き、保護者・地域や関係諸団体と連携しながら、地域に古くから伝わる伝統文化等をはじめとする様々な教育的資源を学習過程に取り入れ、教科横断的な学習として活用することにより、郷土愛を育み続けていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90% 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 50% 以上にする。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和 3 年度より 4 ポイント向上させる。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85% 以上にする。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 60% 以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査において、「毎日決められた時刻に寝ていますか」「毎日決められた時刻に起きていますか」「毎日朝食を食べていますか」（早寝早起き朝ごはん）それぞれに対して肯定的な回答をする児童の割合を 80% 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 90% 以上にする。
- ゆとりの日や午後 6 時までに全教職員が退勤する日を週 1 回以上設定する。
- 令和 7 年度末の校内調査において、「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80% 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小学校）

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

- 令和 5 年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。

○生活振り返りカード（東粉浜マイスターカード）の各項目について毎月保護者と児童が話し合い、学校や家庭生活を振り返り、自己の課題を明確にして改善に取り組む。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小学校）

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 45%以上にする。（R4 年度 43.5%）
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 70%以上にする。（R4 年度 68.7%）

学校の年度目標

- 令和 5 年度末の校内調査において、「早寝・早起きができている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にし、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上を維持する。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小学校）

- デジタル教材や学習者用端末等 ICT 機器を活用した授業を毎日 1 回以上行う。
- ゆとりの日や午後 6 時までに全教職員が退勤する日を週 1 回以上設定する。

学校の年度目標

- 年度末の校内調査において、「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上を維持する。

3 本年度の自己評価結果の総括

「安全・安心な教育の推進」では、常に児童に寄り添い、継続的、組織的に取り組み続けてきた。児童の言動から危機感を感じた時にはすぐに情報共有をし、組織的に対応を検討し、関係諸機関とも連携した結果、大きな問題になる前に落ち着きを取り戻すことができた。また、定期的に来校している SC や SSW と連携を密にし、継続的な見守りを続けている。今後も、常にいつ再発するかもしれないという危機感を持ちながら見守り続けていく。さらに、一人一台学習者用端末を活用し、スクールライフノートの「心の天気」「相談機能」「いいとこみつけ」も日々チェックし活用をしていく。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」では、学力面では学力経年調査の標準化得点で、概ねどの学年もほぼ 100 を超えることができている。一定の学力の定着を図ることができている。体力面では、今年度から 3 年生以上を体育専科を取り入れたこと、シナプスロジーを取り入れた授業を実践したこと、頑張りカードが励みとなったことなどもあり、

休憩時間等に外で体を動かしている児童を多く見るなど、一定の成果はみられている。ただ、高い気温が続き熱中症対策のため運動場に出られない期間が続く時期があったこともあり、コロナ禍で低下した体力が回復してきているとは一概には言えない。今後、学力面ではさらに読解力を伸ばし、まず自分の思いをしっかりと持ったうえで、コミュニケーション力をさらに磨き、周りの人に伝えあい、深めあえるように育んでいく。体力面では、系統立てた専科指導による計画的な体育学習を進めたり、意欲的に取り組むことができる体育行事やそれに関連する頑張りカード、表彰などを工夫することで、より意欲的にすすんで体力向上に努めていくように働きかけていく。

「学びを支える教育環境の充実」では、今年度取り組んだリーディング DX スクール事業の成果と課題を踏まえて、より効果的に一人一台学習者用端末や ICT 機器を活用し、個別最適な学びに取り組み、協働学習で自分の考えをさらに深め、練り上げることができる授業を工夫していく。また、引き続き、保護者・地域や関係諸団体と連携しながら、地域に古くから伝わる伝統文化等をはじめとする様々な教育的資源を学習過程に取り入れ、教科横断的な学習として活用することにより、郷土愛を育み続けていく。同時に、専門家による「本物」を体験できる特別授業を数多く実践することで、心揺さぶる感動体験を引き続き取り入れていきたい。

大阪市立東粉浜小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 全市共通目標 (小学校) ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。 ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 学校の年度目標 ○令和 5 年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。 ○生活振り返りカード (東粉浜マイスターカード) の各項目について毎月保護者と児童が話し合い、学校や家庭生活を振り返り、自己の課題を明確にして改善に取り組む。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめ・不登校への対応 ・いじめや不登校など配慮が必要な児童の問題解決について、各学級担任・生活指導部長・養護教諭・管理職が連携して、組織的かつ外部機関とも連携しながら丁寧に対応していく。 ・いじめについて考える日や道徳授業において、いじめについて深く考える授業を行う。 ()	A
指標 ・配慮や支援の必要な児童について、スクリーニングシートの活用や共通理解の場を月一回設ける。 ・いじめについて考える日や道徳授業において、学期に 1 回以上いじめに関する指導を行い定期的にいじめについて考える機会を設ける。	
取組内容② 【1 安全・安心な教育環境の実現】 防災・減災教育の推進 ・火災や地震・津波の避難訓練、引き取り訓練、不審者対応訓練、救急救命講習会などを計画し、区役所、警察、消防署などとも連携しながら、取組を進める。 ・子どもの意識を高めるため、防災学習に取り組む。 ()	B

指標	・避難訓練、引き取り訓練、防災学習等、命を守る学習を計画的に実施する。	
取組内容③【2 豊かな心の育成】		B
自尊感情の育成	・日々の授業や学級活動、他学年との交流活動を通して、自分のよさに気づいたり、仲間に認められたりする場を設ける。 <div></div>	
指標	・生活振り返りカードにおいて、「まわりにいる人から、『ありがとう』や『すごいね』と言われたことがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上を維持する。	
取組内容④【2 豊かな心の育成】		B
道徳教育の推進	・道徳教育の充実を図り、子ども同士が意見を交流することができる授業を展開するために、道徳教育推進教師による研修会などを活用して、学校全体での授業の方法や評価のあり方に対する理解を深める。 <div></div>	
指標	・道徳科における研修会などを活かし、年間1回（12月10日付近に）「道徳の日」を設定し、その日の様子をホームページに公開し、保護者や地域に発信する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>① 配慮や支援の必要な児童について、共通理解の場を月1回設けることができた。定期的にいじめについて考える機会を設けることができ、自分のよさを感じたり、仲間に認められたりする取り組みを各学級で行うことができた。 これまでのスクリーニングシートよりきめ細やかに、子どもの気づきを入力できる「いいとこみつけ」の活用に取り組んだ。口頭での情報共有だけでなく、追いつけられる記録として残すことができた。また担任だけでなくいろいろな立場の教職員が、普段の様子とちがった様子を感じとった時に、いつでもそこに書き込むことができるようになった。そのため、すぐに気になる子どもの様子が確認でき、情報共有がより迅速になった。また、子どもの問題解決に向けては、学年・生活指導部長・人権教育部長・養護教諭・管理職で連携しながら、丁寧に対応していくことができた。同時にSC、SSWとも情報共有することができ、外部機関とも連携することができた。さらにさまざまな人権課題に関する資料を回覧や人権用 chat で共有し、それぞれの教職員が子どもの居場所について考えることができた。</div> <div>② 計画に沿って火災・地震・不審者対応訓練などの実施ができた。今年度は警察署とも連携し、不審者対応の実技講習会も行い防犯への意識が高まった。9月の防災週間では、全学年の防災学習を参観とし保護者とともに防災について学ぶことができた。</div> <div>③ 今年度は全校児童を4色10班のたてわり班を編成し、運動会をはじめ、年間を通して同じたてわり班活動による異学年交流の機会を多くもてた。また、「いいとこみつけ」などの自分のよさに気づいたり、仲間に認められたりする場を設ける学年があった。生活振り返りカードにおいて、「まわりにいる人から、『ありがとう』や『すごいね』と言われたことがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は94.0%と高い結果となった。</div> <div>④ 研修会や「道徳の日」の実施等、計画通りに進めることができた。今年度は1日学校公開日と「道徳の日」を重ねることで、より保護者へ発信することができた。クラスが学</div>		

年の実態に応じて学年集会を開いたり NHK for school を活用した取り組みを行ったりするなど、豊かな心の育成に取り組めた。

次年度への改善点

- ① 共通理解の場は継続して必要だが、業務改善も考慮し、普段からの「いいところみつけ」入力習慣化、その場だけの情報共有にならないよう、それ以外でも丁寧な対応につながるよう、そのシステムのさらなる活用を図る。いじめ・不登校などの問題は、解決に向けて学校全体で取り組むべきものとして、個人情報の取り扱いには十分に留意しながらも、問題が発生した時点で、子どもの情報が、学校全体ですぐに共有できるベストな組織であり続けることや、常に教職員一人ひとりが「一人で抱え込まず学校全体で取り組む」というチーム意識を持ち続けることを今後も継続していく。
- ② 各訓練の実施時間を休み時間や抜き打ちで行うなど、子どもも大人もいざというときにどう対応するかを考えられるような訓練の持ち方を検討していく。ただ、不安に思う子どもへの心理的配慮は慎重に行うこととする。
- ③ 今年度から取り組んだ４色たてわり班活動を引き続き取り組んでいくとともに、他者の良いところを認めあう活動を各クラスがどのように取り組んだのか伝達する機会を設けたり、どのようにしたらより自尊感情が高まるのかを検討したりする機会を検討する。
- ④ 次年度も継続して取り組んでいく。道徳科の授業実践の交流や子ども同士が意見を交流できるような授業の進め方、授業の中での ICT 機器活用などの研修会がより充実するようにしていく。

大阪市立東粉浜小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標 (小学校)</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 45%以上にする。(R4 年度 43.5%)</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「外国語 (英語) の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 70%以上にする。(R4 年度 68.7%)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○令和 5 年度末の校内調査において、「早寝・早起きができている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にし、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上を維持する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の推進</p> <p>・校内研究をすすめ、全学年で思考ツールを活用した主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業研究に取り組む。</p> <p>()</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・生活振り返りカードにおいて、「授業で自分の意見を言ったり、友達と話し合ったりすることが楽しい」を肯定的に答える児童を 70%以上にする。</p> <p>・2 年目教員の授業実践や、メンターを中心とする研修を年間 5 回以上行い、若手教員の指導力を高めていく。</p> <p>()</p>	A
<p>取組内容② 【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>英語教育の強化</p> <p>・全学年週 2 回のフォニックス活動、3・4 年生の外国語活動、5・6 年生の外国語科</p>	B

<p>を中心とした決められた時間を、ヒアリングとアウトプットを意識して実施する。 ()</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活振り返りカードにおいて、「英語の学習は楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 	
<p>取組内容③【5 健やかな体の育成】</p> <p>体力・運動能力向上のための取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力向上推進者による伝達研修等により、体育科の学習時間内の運動量の向上、ならびに普段の生活の中での運動（外遊び）する習慣が身につくようにする。 体育的行事やチャレンジ大会、頑張りカードの活用、校内での表彰等、児童の体力向上への意欲をさらに高めていく。 <p>()</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月の生活振り返りカードの運動（外遊び）をしたと肯定的な回答をする児童を85%以上にする。 	
<p>取組内容④【5 健やかな体の育成】</p> <p>健康教育・食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の規則正しい生活習慣が身に付くよう、「早寝早起き朝ごはん」をキーワードに、指導と啓発を行う。 <p>()</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活振り返りカードにおいて、「早寝・早起きができている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にし、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合を90%以上を維持する。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 児童が自分の考えを表現できるように思考ツールや ICT を活用した授業の工夫を行うとともに、協働的な学びが行えるように言語活動や話し合い活動の工夫を行った。また計画通りメンター研修や校内研修を行い、教員の指導力向上を図ることができた。その結果生活振り返りカードにおいて、「授業で自分の意見を言ったり、友達と話し合ったりすることが楽しい」を肯定的に答える児童を92.0%と目標を大きく上回る結果となった。</p> <p>② 計画通り週2回の朝の英語タイムを各学年の実態に合わせて実施することができた。C-NET と連携してヒアリングとアウトプットを意識しながら、外国語活動や外国語の授業をすすめることができた。また、朝の英語タイムや国語の授業等を活用しながら全学年が C-NET と関わる機会を作ることができた。その中で絵本の読み聞かせや簡単なゲームなど楽しめる活動を行えるように工夫した。高学年につれて教科における学習内容の難しさや苦手意識等で肯定的に回答する児童は減る傾向が見られたものの、全体の結果としては生活振り返りカードの「英語の学習は楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は86.9%であり、目標を達成することができた。</p> <p>③ なわとび週間とかけあし週間と体育的行事を2回行うことができた。その際に活用した頑張りカードは効果的であった。運動する意欲喚起にはつながり熱中症対策で運動場を利用できない期間もあったが、生活振り返りカードにおいて「外遊びをした」を肯定的</p>	

に答える児童の割合は、86.0%と目標は達成できた。

- ④ 生活振り返りカードにおいて、「早寝・早起きができている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合が 75.9%と学年によっては改善傾向にあるが目標には至らず、習い事や家庭環境で左右されるのが実情である。また、「毎日朝食を食べている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合は 96.1%となり、依然と朝食を欠かさず食べる意識は高い水準を維持している。

次年度への改善点

- ① 今年度リーディング DX スクール事業に取り組んだ成果と課題を検証し、引き続き一人一台学習者用端末の日常的な活用を進めるとともに、児童の課題となる資質能力を伸ばすための効果的な指導について精査し見直ししながら研究を進めていく。
- ② 継続して取り組んでいく。英語タイムに関しては、より効果的となる取り組む時間帯を再度検討する。全学年が視覚的に楽しめるようなものを掲示したり、児童が楽しんで活動できるような指導法を研修したり、ICT 機器活用などを考えたりすることで、より英語に興味関心をもてるようにしていく。
- ③ 体育的行事の際、雨天での中止が多かったため、予備日を設定するなど雨天時の予定について考える必要がある。読書や一人一台学習者用端末の活用など休み時間の多様な過ごし方と外遊びのバランスをどのように考えていくかが課題である。
- ④ 早寝早起きに関して、目標達成が難しいのは、目安の時刻を周知しているが、習い事や保護者の仕事の状況などが大きく関係していると考えられる。さらに、ネット利用の低年齢化が進み、低学年でも動画視聴やオンラインゲームをしている児童も少なくない。家庭と連携して状況を知り、使用時間のルールや成長と睡眠の大切さを啓発する活動を今後取り入れていく必要がある。

大阪市立東粉浜小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標 (小学校) ○デジタル教材や学習者用端末等 ICT 機器を活用した授業を毎日 1 回以上行う。 ○ゆとりの日や午後 6 時までに退勤する日を週 1 回以上設定する。 学校の年度目標 ○年度末の校内調査において、「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上を維持する。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【6 教育 DX の推進】 ICT を活用した教育の推進 ○主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を進めるとともに、大型モニターや PC、一人一台学習者用端末の活用にも努め、ICT を有効活用した授業を学年の発達段階に応じて推進する。 ()	A
指標 ・生活振り返りカードにおいて、「デジタル教科書やパソコンなどを使って学習するのは楽しい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。	
取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 働き方改革の推進 ・時間外勤務時間を減らし、教職員の健康管理をすすめる。 ・教科担任制や、SSS の活用、学校行事の精選や会議時間の短縮に努める。 ()	B
指標 ・ゆとりの日や午後 6 時までに退勤する日を週 1 回以上設定する。	
取組内容③【8 生涯学習の支援】 「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組 ・子どもたちが読書を好きになる仕掛けをできることから積極的に取り組んでいく。 (読書タイム、おすすめ本の紹介、読み聞かせ、本の帯づくり等) ()	B
指標 ・年度末の校内調査 (図書委員会の活動) において、「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上を維持する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

- ① 今年度リーディングD Xスクール事業指定校となったこともあり各学年が積極的に ICT 機器を活用した授業づくりや取り組みを行うことができた。生活振り返りカードにおいて、「デジタル教科書やパソコンなどを使って学習するのは楽しい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は 95.5%と高い水準を維持することができた。
- ② 今年度リーディングD Xスクール事業として働き方改革にも努め、毎週 1 回以上午後 6 時まで退勤する日が設定されたり、SSS の方のサポートや 3 年生以上の理科と体育を専科制度にしたことや学年内で教科担任制を取り入れたりしたことで、業務内容が改善されてきた方向にある。
- ③ 図書館開放を週に 5 日実施し、全学年で週に 1 度読書タイムを設定した。また、選書を年に 2 度行い、調べ学習に必要な本や、児童が興味のある新しい本を増やすことができた。年度末の校内調査（図書委員会の活動）において、「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童が 84.2%で目標の 80%以上を達成することができた。

次年度への改善点

- ① 引き続きより有効的な一人一台学習者用端末の使用方法を研鑽する。その際には、各学年の段階で何が端末を使ってできるようになるか等系統立てて実践する必要がある。また、「ICT の活用が進んだ」＝「主体的で対話的で深い学びとなった」かどうかは、判断が難しいため、指標を「楽しい」から「分かる」に変える等の検討を行う。
- ② 端末を活用したオンラインによる情報共有などを行うことで、企画会等の会議内容・行事の精選を行い、さらに日々の業務を減らす方策を考える。
- ③ 現在すでに取り組んでいるおすすめ本の紹介、本の福袋など様々な活動だけではなく、あまり読書が好きではない児童が関心を持てるような新たな活動を、図書委員会の児童や司書と相談し、検討していく。

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

1 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	「学校生活のやくそく」を見直し共通理解するとともに、東粉浜小学校学校安心ルールの策定・実行を柱に、児童の規範意識の向上、自己肯定感の育成に重点を置き、学習指導・生活指導に取り組むとともに、家庭に啓発し早寝早起き朝ごはん等の基本的な生活習慣の啓発に取り組み続けた結果として、今年度も暴力行為の発生がなかったことが成果である。また、今年度から年間を通してたてわり班活動を取り組んだことで、上の学年が下の学年に優しくしたり、下の学年が上の学年にあこがれを抱いたりするようになってきており、学年を越えて互いを受け入れる土壌が育っている。
② いじめの状況等	毎学期のアンケートや児童の観察・聞き取り等からいじめを認知した時点で、素早く担任による聞き取りをした。スクリーニング会議を毎月行い学校全体で児童の実態や課題を共有した。「いじめはいつでもどこでも起こり得る」ということを危機意識として持ち、小さな「芽」を感じたらすぐに情報を共有し、組織的に対応し、問題がすぐに解消するよう、複数の目で見守り・指導・支援を続け、仲間作りについて継続的に指導した。結果、昨年度よりもいじめの認知件数が減り、現在児童は落ち着いているようであるが、今後も引き続きなお危機感を持って指導を継続している。
③ 小・中・義務教育学校における不登校の状況等	不登校児童には、外部機関とも連携するとともに主に担任が保護者や本人と連携を密にし関係を築き、少しでも外に出るなどスモールステップで対応を継続している。その他不登校傾向にある児童が数名おり、保護者とも連携し、子どもに寄り添い、粘り強く指導をし続けている。スクリーニング会議を活用し、担任、管理職、関係教員等が連携して対応しており、必要に応じてスクールカウンセラーをはじめとする関係諸機関とも情報共有しながら対応している。

※ 両表とも、小・中・義務教育学校は①②③の項目について、それぞれ記入すること